



聖書と神の権威

聖書はどういう意味で「神の言葉」であるのか

著者 N.T. ライト
 訳者 山崎ランサム 和彦

ISBN978-4-900677-46-3 四六判 280頁 並製
 C0016 ¥2500E 定価 2,750円 (本体2500円)

キリスト教において聖書と聖霊が権威の中心であることは力強く支持されている。しかし、このことが何を意味するか、実際にどのように機能するのかについて統一した合意は得られていない。

聖書に対する意見の相違や信仰理解の混乱の中で、聖書の位置と神の権威の理解について、本書は新たなモデルを提示する。その新鮮かつ有益な論説により、神からのメッセージを受け取る聖書の価値を回復させようとしている。

著者◎ N.T. ライト

セント・アンドリュース大学神学部教授。オックスフォード大学神学部上席研究員。英国国教会の元ダラム主教。専門は新約聖書学、初期キリスト教学。ABC ニュースをはじめメディアでも紹介される。著書多数。

訳者◎ 山崎ランサム 和彦

東京大学、バテル神学校、トリニティ福音主義神学校卒。哲学博士。聖契神学校教務主任、鶴見聖契キリスト教会協力牧師。日本福音主義神学会全国理事長。著書：『平和の神の勝利』（ブレイズ出版）他。訳書：ライト『シンプリィ・グッドニュース』V・ロバーツ『神の大いなる物語』他。

◎聖書、伝統、神の権威とは何か？

◎宗教改革者が成し遂げ、

また見過ごしたものは何か？

◎今日のキリスト教右派と左派による

聖書の誤読とは？

【目次】

第二版への序

プロローグ

第1章 誰の権威によって？

第2章 イスラエルと神の王国の民

第3章 聖書とイエス

第4章 使徒時代の教会における「神の言葉」

第5章 最初の16世紀

第6章 啓蒙主義の挑戦

第7章 聖書の誤読

第8章 正道に戻るには

第9章 ケーススタディ——安息日

第10章 ケーススタディ——単婚制

訳者あとがき